

城と史蹟を歩く会第11回「国府台城から矢切の渡しで寅さんの柴又帝釈天を歩く」ご案内資料

<日時> 平成14年4月4日(木曜日)9時20分～16時30分ころ

<主要行程> 八幡宿8時10分乗車 — 千葉29分着、48分発(②番線総武各駅)市川9時20分着 — 真間の継橋 — 手児奈堂 — 弘法寺 — 下総国府跡 — 里見公園(昼食、花見)国府台城 — 国立病院前(バス移動190円)下矢切 — 古戦場跡 — 野菊の墓文学碑 — 江戸川(矢切の渡し100円)柴又 — 寅さん記念館(団体400円)山本亭 — 帝釈天 — 参道(自由行動) — 京成柴又16時30分ころ乗車 — 高砂乗換 — 船橋(JR総武快速乗換)千葉経由、八幡宿18時30分ころ着

山岸 弘明

1) はじめに (地名のおこり)

- ①市川=国衙の市場。南北朝以前からの地名。
- ②真間=ままはガケ。真間山の断崖をいい、奈良期からの地名。
- ③葛飾=武蔵野につづく広い原野で葛が深く生い茂る。
- ④芝又=はじめ島俣。昔入江で島が点在した。

2) 佐倉道(佐倉成田街道)と市川宿

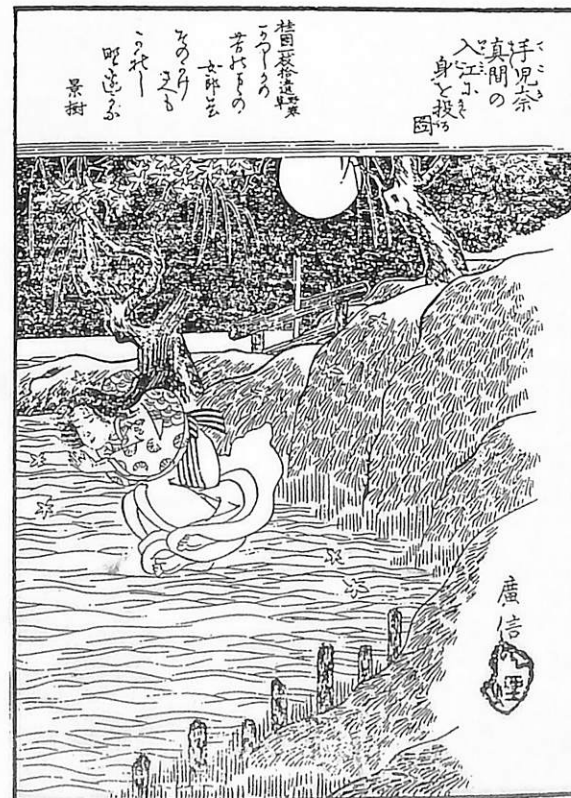
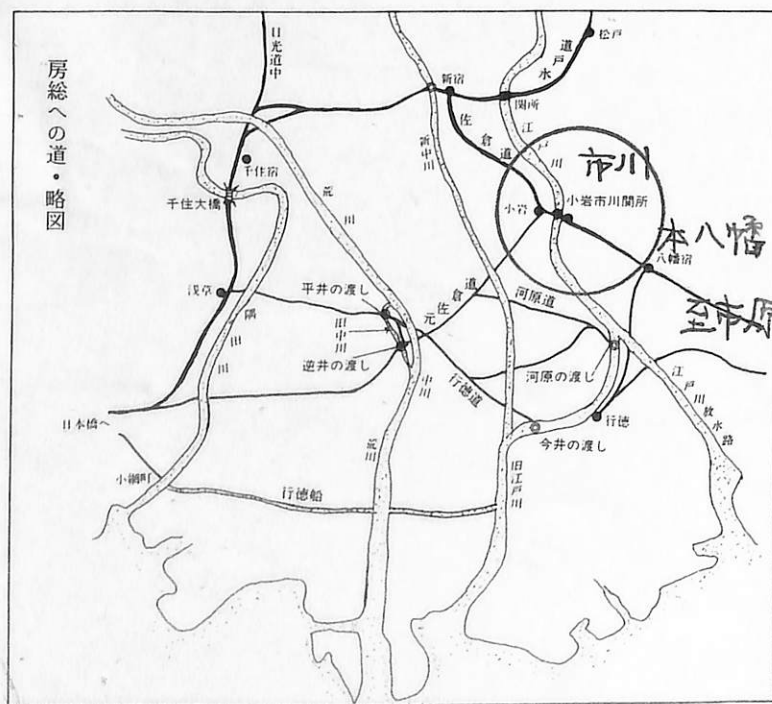
- ①市川宿=佐倉道の八幡宿(現本八幡)から江戸川をへて小岩に抜ける渡しと関所のある宿場町。
- ②上総、安房国大名の参勤路=上総から江戸へは五井、八幡宿から海路が便利であったが、参勤交代での利用が認められない。大名行列は房総往還で船橋に出、佐倉道と水戸街道で千住、浅草を迂回した。小岩から平井方面に抜ければ無泊も可能だが幕府の許可はなかった。
- ③参勤交代で市川を通った市原方面の大名たち=生実森川藩、五井有馬藩、久留里黒田藩、大多喜松平藩、北条水野藩、飯野保科藩、勝山酒井藩ほか。鶴牧藩は定府大名のため参勤交代はなかった。

3) 江戸川の渡しと小岩市川関所 (遠望)

- ①市川の渡し=市川と小岩を結ぶ渡し船。両岸に番小屋を設け、市川村の船頭10人が就労した。
- ②小岩市川関所=両岸の渡船場におかれた関所。建物はおよそ10坪。出入り2か所に木戸門をおき、中根、黒佐、田中、川村の4家が世襲で通行人の監視にあたった。俗に「関所破りはハリツケ」、「入鉄砲に出女」といい、関所手形を厳しくチェックした。
- ③助郷=参勤交代では近隣領民が助郷として継立や川越えに駆出されたり、経費を分担させられた。

4) 手児奈伝説と万葉道

- ①手児奈伝説=昔、このあたりに手児奈という美しい娘が住んでいた。麻の着物に髪もとかず履物もはかない質素な女性だが貴婦人より美しく清らかだったという。手児奈は多くの男たちに求婚されたが、自分のため人々が争うのをみて真間の入江に身を投じる。真間の里に古くから伝わる伝説が世に知れ万葉集にも歌われた。手児奈の素性は未詳。国造(くにのみやっこ)の姫、庶民の娘、巫女など諸説がある。



②万葉集に収載された歌

- 葛飾の 真間の浦廻(み)をこく船の 船人騒ぐ波たつらしも(巻14=高橋虫麻呂)
- 葛飾の 真間の手児名をまことかも 吾に寄すとふ真間の手児奈を(〃)
- 葛飾の 真間の手児名がありしはか 真間の磯部(おすひ)に波もとどろに(〃)
- にわたりの 葛飾早稲を饗(にえ)すとも その愛しきを 外に立てめやも(〃)
- 足(あ)の音せず 行かむ駒もが葛飾の 真間の継橋やまず通はむ(〃)
- 勝鹿の真間の娘子を詠める歌一首(長文省略)(巻9=〃)
- 勝鹿の 真間の井をみれば立ちならし 水汲ましけむ手児奈し思ほゆ(〃)
- 勝鹿の真間の娘子の墓を過ぎし時、山部宿禰赤人の作れる歌一首(長文省略)(巻3=山部赤人)
- 吾もみつ 人にも告げむ葛飾の 真間の手児奈が奥津城処(〃)
- 葛飾の 真間の入江にうちなびく 玉藻刈りけむ手児奈し思ほゆ(〃)

②大門通り=弘法寺の参道。真間の手児奈伝説の地、万葉道として市川市がPRしている。

5) 真間の継橋

- ①継橋は小島や岩を結ぶ橋、川の中に柱を立てて継ぎたした橋をいう。
- ②現在は朱塗りの小橋に史蹟案内、碑文などがたつ。川筋は残るが川水はない。

6) 手児奈堂(霊堂)

- ①手児奈を奉る。古い祠を16世紀はじめ霊堂に改修したのがはじまり。現在の建物は江戸後期で棟札は文政7年修復を記録している。
- ②子育安産に霊験新たか。針灸治療も知られている。
- ③手児奈堂の池=手児奈の入水地は不詳だが、池に入江の雰囲気が残る。

7) 真間の井(亀井院)

- ①亀井院=寛永15年、弘法寺貫首の隠居寺として創建。
- ②真間の井=手児奈が毎日水汲みにかよったという井戸。

8) 弘法寺

- ①平安時代末期、弘法大師が訪れたとき手児奈を哀れんで建立。現在は日蓮宗。真間山弘法寺江戸時代、水戸光圀、8代将軍吉宗も来訪、風光を愛でた。
- ②石段、涙石=慶長(寛永とも)ころ、旗本鈴木長次寄進。東照宮造営のとき伊豆から石材を輸送中に船が動かなくなったので降ろして石段とし、潔白を証明するため割腹したという。全63段の中ほど濡れた石が涙石。長次の涙で乾くことがない。
- ③仁王門=かつての門は明治時代に焼失。松戸万満寺の門を移築した。江戸時代後期のもの。楼門。入母屋屋根、2階造りで回廊が回る。左右の仁王は運慶作と伝わるアウンの金剛力士像。山号扁額「真間山」は開山・弘法大師(空海)筆という。
- ④祖師堂=伽藍の中心で開祖、日蓮聖人像を奉る。明治23年の造営。
- ⑤鐘楼堂=慶安年間建立、明治26年再建。袴付き。慶長年間鑄造の梵鐘も大戦で供出、戦後の鑄造。
- ⑥伏姫桜=しだれ桜の老木。満開の花枝が美しくふりそそぐか?
- ⑦松平直基の墓=徳川家康の次男秀康の4男。家康の孫になる。姫路15万石。その子直矩が埋葬した。中央が母、左が妻。石垣上、透垣、石門に囲まれた全高3mの駒型。大名墓碑の風格を備える。
- ⑧本堂、中雀門、客殿

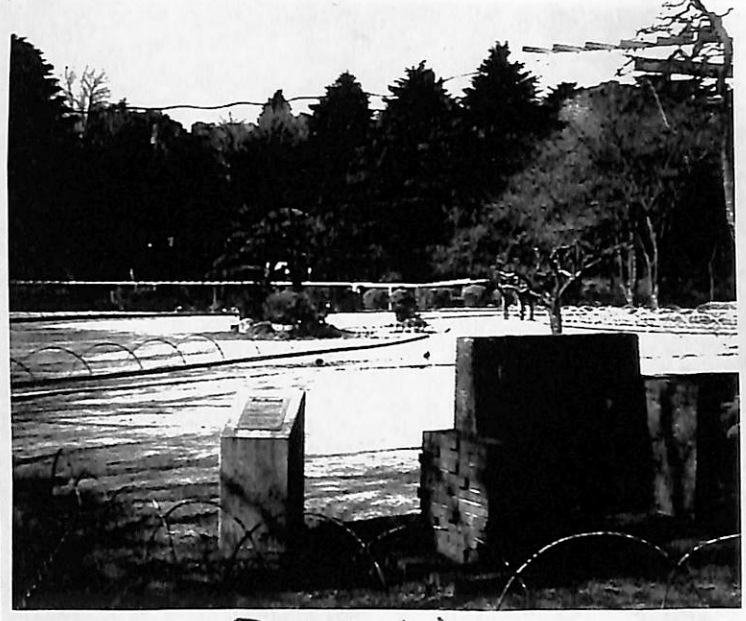
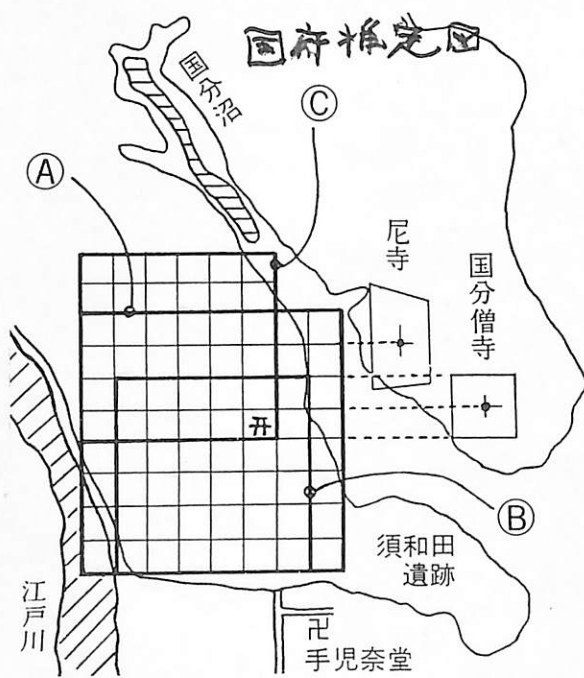




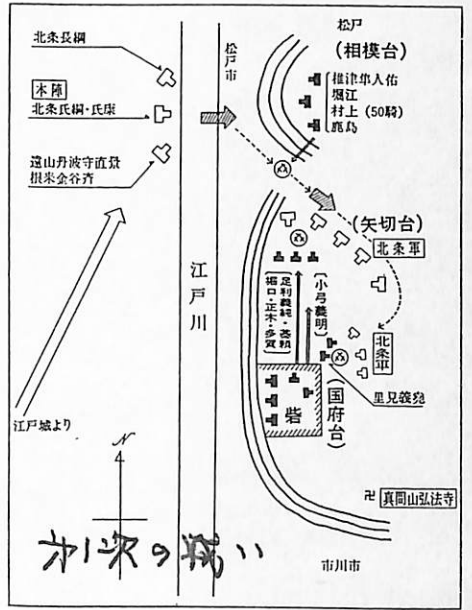
↑仁王門 ↓下総国府跡 ↓満開の里見公園 ↑39 靖寺



↓江戸川を一望



国府台城跡



- あしかがよしあき 足利義明 一五三八 室町後期の武将。古河公方政氏次子、高基の弟。初め僧となり雲下殿と称し、のち還俗。父と合わず奥州に逃れ住んでいたが、上総守義代武田氏に連れられて下総小弓に居城、小弓御所を称した。両総を従え安房の里見義弘の援けをえて勢威大いに振い、古河公方晴氏と対立した。一五二六(大永6)年里見義弘をして海路鎌倉を攻撃せしめ、ついで三八(天文七)年里見義堯と連合し、北条氏綱・氏康父子を下総国府台に迎え討ったが、暴戦して子義純・弟頼基とともに敗死。
- 12) 国府台城(公園、総寧寺)と北条氏×足利、里見氏の戦い
- ①中世15世紀中ごろ千葉実胤の築城だがわずか1年で古河公方の攻撃を受けて落城、のち、太田道権が江戸城の支城として本格的に構築し直した。戦国後期は北条氏が支配、天正18年、徳川家康の江戸入府ののち江戸俯瞰の地として廃城となった。(廃城時期に諸説がある)
 - ②戦国時代、国府台城で関東の覇権をかけて房総勢と北条小田原軍が激突した。
第1次国府台の戦い=天文7年、生実公方で市原ともゆかり深い足利義明は里見義堯を従えて国府台に侵攻、北条氏綱と激突して敗死、見極めた里見勢は戦うことなく陣を引いた。
第2次国府台の戦い=永録7年の戦いは里見義弘が8千の兵を率いて国府台に陣を構え、北条勢2万を迎えうつ。諸戦は里見勢が勝つが油断した隙に夜襲をかけられて狼狽、士気を失って大敗した。余勢をかった北条軍は追撃、市原の諸城も落城し、以後北条氏の支配下に置かれた。
 - ③明治維新の戦いでも戦火をあびる。慶応4年、江戸開城に不満の陸軍奉行大鳥圭介ら2千が国府台に集結。松戸、市川、船橋で官軍と激突したが敗走、市川宿の大半を焼失した。以後、戦場は市原方面に移った。
 - ④羅漢の井戸=城兵の飲料水。高台で井戸堀が難しかったのだろう、川近くの低地にある。
 - ⑤里見陣亡の碑と夜泣き石=「里見諸士群亡塚」「里見諸将群霊墓」「里見広次公廟」。里見軍の戦死者は里見義弘の子広次以下5千人。広次ゆかりの夜泣き石も。
 - ⑥土塁と空堀=三重のうち本丸、2の丸の土塁と空堀を巡る。遺構がはっきりと現存している。
 - ⑦本丸=江戸川岸壁の立地に注目。鐘が淵=敗走する里見勢は混乱して深淵に陣鐘を落とす。
 - ⑧総寧寺=2の丸の一部。江戸中期寛文3年に関宿から移転。下馬塔に高い格式。関宿城主小笠原政信夫妻五輪供養塔も。
- 13) バス移動=国立病院から松戸行き乗車190円。6つめ下矢切下車
バス時刻表=13、14時共通00、06、12、18分……(6分間隔)
- 14) 矢切古戦場跡(庚申塚、大坂)
- ①大坂周辺が2度の戦いの主戦場に。北条勢は最深10m?の江戸川を渡って敵陣に攻込む。永録の戦いでは江戸城代遠山直景と葛西の富永政家ら北条勢の名だたる武将100余騎が討死するなど双方に多くの犠牲者がでた。(説明板は両軍の戦死者1万余としている)

- 9) 下総国府跡、総社碑(総合運動場)
- ①古代下総の中心地。国府は律令制下の諸国政庁(県庁)所在地で政治、交通の要地に置かれた。国府台および真間の台地上とされるが、範囲や国衙の位置は未詳。東方およそ500mに国分寺と尼寺跡がある。
 - ②総社跡=当時国司の主要任務に六所の神参りがあり、のち総社に合祀された。
- 10) 国府台兵舎跡(学校群)
- ①明治から終戦まで国府台一帯は陸軍兵舎の立並ぶ軍隊の町。終戦時は東都管区砲兵隊司令部、野戦重砲兵連隊と国府台衛生病院。富国強兵、日本の軍国化がすすんだ。
 - ②いま千葉商科大学、和洋女子大学、国府台高校、市川一中の学都、国立病院、里見公園、スポーツセンターに。
- 11) 里見公園(昼食、お花見)
- ①江戸川に面した高台にある市民公園。国府台城跡、陸軍省用地跡を一般市民の憩いの場として開放。面積8ヘクタール。芝生広場を中心に染井吉野桜240本、里桜20本、梅林が植えられている。
 - ②ちょうど満開ころ。お花見気分を満喫しながらお弁当を楽しみましょう。

寅さん記念館



「くるまや」

原寸大のセットでくるまやの撮影風景を再現。茶の間で繰り広げられる数々の名場面を映像でつづります。このセットは大船撮影所で実際に使われたものです。

寅さんは健在



野菊文学碑

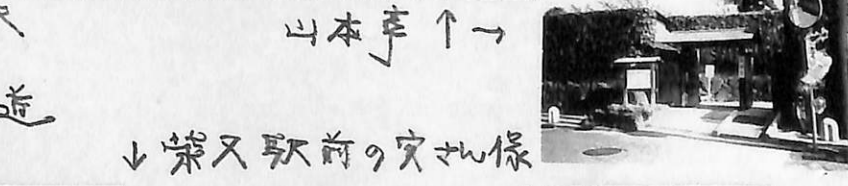
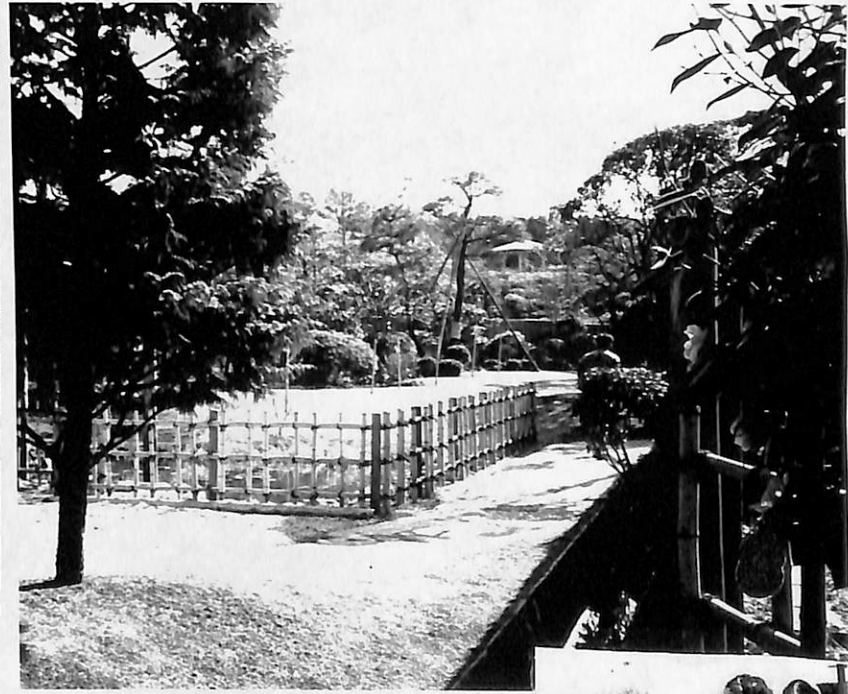
矢切の渡し



- 19) 山本亭
 - ①元山本栄之助氏、大正時代の旧邸。和風と洋風の趣向が入交じりまじったじっとりした建築様式は大正ロマンが溢れる。
 - ②庭園をみながら邸宅外観をめぐる。邸内は時間の都合で省略。いずれかの機会にどうぞ。
- 20) 帝釈天
 - ①日蓮宗。経栄山題経寺。本尊が帝釈天。寛永6年創建。江戸後期に興隆。安永8年庚申の日、行方不明となっていた板本尊を本堂棟上に発見。「庚申待ち」信仰と結ぶ「宵庚申」で賑わった。
 - ②現存建物は釈迦堂以外、明治以降の建造。二天門、大鐘楼、帝釈堂などの彫刻は名作が多く「彫刻の寺」で知られる。
 - ③二天門=帝釈天1番の傑作。明治39年建造。2階造り楼門。入母屋屋根、両軒唐破風、本瓦葺き、両袖を増長天、広目天の二天が守る。破風け魚、升組は三手先。門扉、壁面、梁、木鼻などの彫刻に注目。天女、獅子、龍、猿、中国の故事など。
 - ④大鐘楼=袴付き。豪壮な四手先升組。全面に彫刻。昭和30年建造と新しいが関東第1とも。
 - ⑤帝釈堂=総檜造り、入母屋根千鳥破風、向拝唐破風。内陣外面は法華経法話彫刻ギャラリー。
 - ⑥祖師堂(本堂)、釈迦堂、大客殿、すい溪園(庭園)、鳳翔会館
- 21) 参道(自由行動=柴又駅前に30分後集合)
 - ①柴又駅までのおよそ300mにみやげ物屋と飲食店が立並ぶ。
 - ②中に「寅さん映画」のロケ地・高木屋も。柴又の名物は草だんご、くずもち、あめ、手焼きせんべい。川魚の川甚は夏目漱石「彼岸過迄」、尾崎司郎「人生劇場」の舞台でも。
 - ③駅前に「寅さんの記念碑」。芝又駅から京成、JR経由で市原へ。

以上

次回予告=第12回5月12日(日曜日=日程変更あり注意)川越城と蔵の町を歩く
詳細は予告編を参照ください。



②戦いのつど、住民は動員されたり、田畑を荒らされたり。「矢はこれきりに」領民の悲痛な叫びが地名に残る。2度と戦乱が起らないように村人たちが建立したという庚申塚に立寄る。

15) 野菊の墓文学碑(野菊院)

- ①伊藤左千夫の「野菊の墓」の舞台になった丘。江東区の大島に住んだ作者は柴又の帝釈天が好きでお参りのあと矢切を散策したという。モデルは友人の斎藤政夫という人。文学碑の横に二人が語りあった銀杏の根が残る。
- ②木下恵介監督の「野菊のごとき君なりき」では笠智衆演ずる初老の政夫が船で江戸川をさかのぼり若き日を回想するプロローグからはじまる。縁談をいやがる民子に「政夫のところにくるのはこの母が不承知だからね」と引導を渡す杉村春子。婚家で生気を失い実家に戻されて息を引取る民子。その胸に手紙と写真が抱かれていたことを政夫は知らされる。エンディングは余りにももの悲しい。

16) 江戸川河川敷

- ①広い河川敷にのどかな田園風景がひろがる。大半はネギと茶畑という。渡船場までおよそ1キロ強、徒歩18分。平成4年という新しい矢切橋で小休止。政夫と民子散歩コース?をゆっくりと歩く。
- ②治水のための堤防に登ってはじめて江戸川の水面が現れる。江戸川にはかつて利根川も流れこんだという。広い河川敷は洪水のたびに氾濫した先人たちの川との戦場でもあった。

17) 矢切の渡し(渡船場)

- ①江戸時代、江戸川だけでおよそ30あったという渡船場だが、現在は東京でここしかない。3~11月は毎日、冬期は土日祝日運転、ただし悪天候は欠航。100円。
- ②江戸周辺や幹線街道の大きな川は、架橋が禁止され、旅人たちは関所のついた渡船を利用した。矢切の渡しは寛永8年、両岸の農民の特権として認められたもので手形なしフリーバスだった。
- ③水鳥の舞う江戸川情緒を満喫しながら10分間の船の旅を楽しむ。川を渡ると柴又。渡船場前の「矢切の渡し」の歌」碑に注目。平成10年、人気歌手細川たかしさんが除幕した。

18) 寅さん記念館(自由行動=40分間)

- ①「男はつらいよ」の主人公で、みんなに慕われた「寅さん」の記念館。寅さん映画は昭和44年から平成8年まで48作作られたが主演渥美清さんの逝去で完結となった。
車寅次郎(渥美清)「私生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と申します」
諏訪さくら(倍賞千恵子)腹違い、兄思いの妹 タコ社長(太宰久雄)隣の印刷工場経営
" 博(前田吟) さくらの夫。印刷工 御前さま(笠智衆)帝釈天の住職
車 竜造(下条正巳)おいちゃん。くるまやの主人 源公(佐藤蛾次郎)寺男。寅さんの子分
" つね(三崎千恵子)おばちゃん。くるまやのおかみ
- ②柴又帝釈天参道、くるまやセット。マルチスクリーンコーナーでは「寅さんシリーズ」の冒頭シーン、撮影現場などが。寅さん一色。2000年リニューアルオープン。楽しさいっぱいです。

矢切の渡し

観光客を乗せてこぎ出す渡し舟。後方は葛飾区柴又



寅さん記念館



↓ 帝釈天参道



◇矢切の渡し (松戸市)
同市矢切と東京都葛飾区柴又間の江戸川を往来する。江戸時代初期、農民が関所を通らず江戸と往来したことに始まり、現在は柴又帝釈天への参拝・観光などに利用され、映画「男はつらいよ」や歌謡曲の世界でもおなじみ。片道中学生以上100円、小学生以下50円。年末年始と3月中旬から11月末まで毎日運行。それ以外の期間は土、日曜、祝日、帝釈天の縁日のみ。午前10時ごろから午後5時ごろまで(悪天候の日は休業)。北総開発鉄道・矢切



↑ 手見奈堂



↑ ぎはし



千葉

柴又帝釈天への参拝
歌謡曲でもおなじみ
お知らせ ご注意ください
第12回=川越=日程の変更
5月11日→12日(日)

城と史蹟を歩く会第11回 4月4日(木曜日=予備日は9日)
「国府台城から矢切の渡しで寅さんの柴又帝釈天を歩く」予告編
往路=八幡宿8時10分—千葉29分着、48分発(②番線総武各駅)市川9時20分着、改札前で開会式 復路=京成柴又17時ころ乗車、高砂乗換え、船橋JR乗換え、千葉経由八幡宿18時30分ころ着

- 主なコースとみどころ 往路のJR切符=八幡宿(570円)市川
- ①真間の手見奈、万葉道=真間は古代、入江の入組んだ海岸。万葉のころ絶世の美女手見奈が住む。多くの男たちに求婚されたが自分のため人々が争うのを見て入水。手見奈堂、真間の井、継橋に手見奈を偲ぶ。万葉集から3首。足(あ)の音せず 行かむ駒もが葛飾の 真間の継橋やまず通はむ 葛飾の 真間の手見奈をまことかも 吾に寄すとふ真間の手見奈を 勝鹿の 真間の井をみれば立ちならし 水波ましけむ手見奈し思はゆ
 - ②弘法寺=平安時代末期、弘法大師が訪れて手見奈を哀れんで建立。江戸時代水戸光圀、将軍吉宗も来訪、風光を愛でた。仁王門、祖師堂、梵鐘、松平直基の墓、涙石など。伏姫桜はしだれ桜の巨木。満開?の花びらを散らすか。
 - ③下総国府跡、総社碑=古代下総の中心地。運動公園一帯に国府が置かれた。国司の主任務は六所の神参り。後期は総社に合祀された。
 - ④国府台兵舎跡=明治初昭和、兵舎の立並ぶ軍隊の町がいま学舎に。
 - ⑤里見公園(昼食、花見)=江戸川に面した台地上の城址を市民公園に開放。数百本の桜木にお花見気分を満喫しながらお弁当を楽しむ。
 - ⑥国府台城=千葉実胤築城、太田道灌整備の中世城郭。土塁、空堀など精度よく現存。戦国時代、両総と小田原北条氏が関東の覇権かけて激突。天文7年足利義明が里見義邦を従えて侵攻するが敗死、永禄7年の戦いも里見勢が大敗して、以後上総は北条氏の支配下に置かれことになる。
 - ⑦国立病院前(バス移動6つめ=190円)下矢切下車
 - ⑧矢切古戦場跡=最激戦地。2度の戦いに住民は動員されたり、田畑を荒らされたり。「矢はこれきりに」領民の悲痛な叫びが地名に残された。
 - ⑨野菊の墓文学碑=伊藤左千夫の「野菊の墓」の舞台になった丘。江戸川辺りを一望するのどかな自然。政夫と民子がデートした銀杏の根も残る。
 - ⑩矢切の渡し(100円)=「寅さん」や細川たかしの「矢切の渡し」で有名。昔ながらの手こぎ渡し船で江戸川を対岸の柴又へ渡る。およそ10分。
 - ⑪寅さん記念館(団体400円)=誰にも慕われた渥美清の寅さん記念館。「私、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎。人呼んでフーテンの寅と発します」。おなじみのテーマソングが流れる。
 - ⑫山本亭(建物には立入りません)=大正ロマン溢れる建物と庭園。
 - ⑬帝釈天=日蓮宗。寺名は経栄山題経寺で帝釈天は本尊。寛永期創建、江戸後期に興隆。見上げる二天門、鐘楼、帝釈天。彫刻の寺だが、今では御前様と寺男・源公の「寅さんの寺」として有名。
 - ⑭参道(自由行動)=「寅さん」のふるさとを散策。ロケ地の高木屋、亀屋本舗、い志い、浅野屋、金子屋、川千家、川甚などが有名。おみやげにどうぞ。

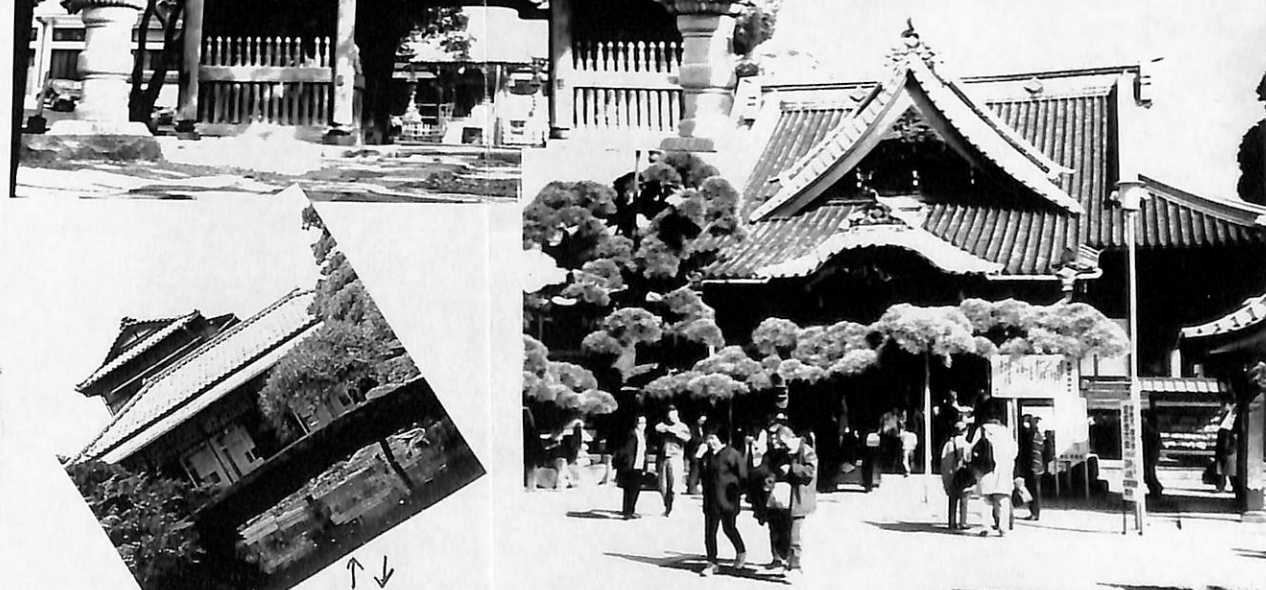


↑ 国府台城址

← 3A 浅茅



↓ 帝釈天



↑ ↓ 山本亭

↓ 野菊の墓文学研

